

Ⅷ 目標値と期待される効果

Ⅷ 目標値と期待される効果

1. 定量的な目標値

本計画によるまちづくりの進捗を把握し、また、見直しの検討材料となる目標値と期待される定量的な効果を設定します。

なお、目標値の設定は、立地適正化計画制度の対象となる居住誘導区域、都市機能誘導区域、拠点を結ぶ公共交通ネットワークを対象とします。

(1) 居住誘導区域の目標値

- 都市機能や居住の誘導効果により、「市街地の安全で利便性が高く暮らしやすい場所にインフラや公共施設等が充足したコンパクトな居住地が形成されている」ことを、「人口密度」と、「建築数」により確認します。
- 具体的には、人口減少が進む中においても、居住誘導区域内の人口密度及び建築確認申請受付件数の維持を目標とします。

	現況値 2010年	目標値 2040年
人口密度（人/ha）※	50	50
	現況値 2015年	目標値 2040年
居住誘導区域内における建築確認申請受付件数（件）	145 (2011～2015年の平均)	145 (2030～2040年の平均)

※可住地あたりの人口密度

(2) 都市機能誘導区域の目標値

- 都市機能や居住の誘導効果により、「都市機能誘導区域にアクセス可能な、速達性・定時制・利便性の確保された基幹的公共交通路線が形成されている」ことを、「**鉄道の乗降客数**」、「**バスの運行間隔**」により確認します。
- 具体的には、公共交通の利用しやすい環境整備を進め、基幹的公共交通路線である、伊豆箱根鉄道駿豆線の5駅のうち、都市機能誘導区域を設定する、伊豆長岡駅及び田京駅の1日当たり乗降客数の合計を維持するとともに、伊豆箱根バスの温泉駅のバスの運行間隔の維持を目標とします。

		現況値 2017年	目標値 2040年
伊豆箱根鉄道駿豆線の乗降客数 (人/日)	伊豆長岡駅	4,830	4,830
	田京駅	2,635	2,635
伊豆箱根バスの運行本数 (本/20分)	温泉駅	1	1

※20分に1本の運転間隔により、基幹的公共交通路線として必要な運行頻度を満たす。

(3) ネットワークの目標値

- 「都市機能誘導区域や市街地と、市街化調整区域の住宅団地や集落等とを結ぶ公共交通網が形成されている」ことを、「**公共交通の路線距離**」により確認します。
- 具体的には、第2次伊豆の国市総合計画で示す、公共交通網の構築に関する2021年度までの数値目標である、公共交通の路線距離の延長を目標とします。なお、2022年度以降は、第2次伊豆の国市総合計画後期基本計画で定めることが想定される数値目標に準じて再設定します。

	現況値 2015年度	目標値 2021年度
公共交通の路線距離の延長 (km)	98.8	113.8

2. 期待される定量的な効果

定量的な目標の達成により、期待される適量的な効果を以下のとおりとします。

(1) 住みやすさの満足度の割合

- 居住誘導区域の人口密度の維持、都市機能誘導区域の都市機能の充実、ネットワーク（公共交通）の維持により、集約型都市構造への再編が進み、市民の「**住みやすさ満足度**」が高まることを期待される効果とします。
- 具体的には、総合計画計画策定時に実施する「伊豆の国市 まちづくりに関するアンケート調査」の「あなたにとって伊豆の国市は住みやすいまちですか」における「とても住みやすい」、「やや住みやすい」の割合を合算した割合を定量的な効果とします。

	現況値 2014年	目標値 2040年
住みやすさ満足度の割合(%) (まちづくりに関するアンケート調査)	44.3	60.0

3. 定期的な見直し

本計画は、時間軸をもった計画です。計画の進行管理については、PDCA マネジメントサイクル（※1）により、計画の見直しと改善をしていきます。

2018年公表後、おおむね5年毎に、「定量的な目標値」や「期待される定量的な効果」の達成状況について、各種統計や市民アンケート調査によって確認を行い、必要に応じて再設定します。

社会経済状況の変化、上位・関連計画の見直し、人口の推移、「伊豆の国市公共施設再配置計画」等の諸計画に基づく公共施設の再配置による都市機能の集積状況の変化などにより、計画の見直しと改善が必要となった場合は、「居住誘導区域」や「都市機能誘導区域」、「誘導施設や方策等」を必要に応じて再設定します。

（居住検討区域⇒居住誘導区域、地域生活機能拠点⇒都市機能誘導区域、市街化調整区域における集落生活圏のあり方を追記、など）

これらの検討にあたっては、伊豆の国市立地適正化計画推進協議会や伊豆の国市都市計画審議会等で、市民に意見を求めています。

※1：PDCA マネジメントサイクル：Plan Do Check Act（計画の策定と目標の設定、計画の展開、目標の達成状況の確認と評価、計画の見直しと改善）のサイクルにより継続的に改善、向上を図ること。

■ PDCA マネジメントサイクルに基づく進行管理



